

下伊那赤十字病院の急性期病床削減について

下伊那赤十字病院
病院長 馬場 淳

1. 目的

1) 現状の役割

昭和50(1975)年5月に当時の鼎町より松川町へ新築移転し、病床数128床として診療を開始する。平成4(1992)年12月に南棟を増築、平成21(2009)年4月に防災センター・健診センター棟を増築し、現在に至る。

令和6(2024)年1月現在、急性期病床66床、医療療養型病床6床、併設型介護医療院34床の合計106床(許可病床として72床)のケアミックス型病院である。

医療・介護・在宅をシームレスに繋げるために、急性期から医療的処置が必要な方のI型介護医療院への入所及び訪問看護をはじめとする訪問診療・訪問リハビリ等の在宅医療に注力し、飯伊医療圏最北地域における地域包括ケアシステムの一員として地域医療を担っている。

また、人間ドックや特定健診などの予防医療にも注力しており、年間4,695件(令和4(2022)年度)の受診成績がある(うち飯伊医療圏割合81.5%)。

当医療圏唯一の赤十字病院として災害救護に関しては、赤十字内・外での災害訓練への毎年の参加や近年の甚大災害時には救護班を派遣し、災害医療から心のケアまでの活動実績を有している。

2) 削減理由

■当地域は高齢化率が高く、2030年頃までは75歳以上の人口動態は変わらないと云われてきているが、当初より入院受療率が早く減少に転じると予測されるため。

■かかりつけ医やポストアキュート機能及び施設・在宅系サービス機能を強化する必要がある。

3) 削減後の役割

急性期医療は引き続き担いながら病床削減を実施した分前方連携を強化し、ポストアキュート機能や在宅系サービスの充実化を図ると同時に予防医療を含めた地域包括ケアシステムへの貢献が求められています。

2. 病床削減

	急性期		慢性期 医療療養	許可病床数	(別掲) 介護医療院
	一般	(内地ケア病床)			
変更前	66床	(34床)	6床	72床	34床
変更後	56床	(34床)	6床	62床	34床

3. 病床削減実施日

令和6(2024)年4月1日

4. 病床機能再編支援事業の活用

今般の病床計画は、国が地域医療構想の実現に向けた財政支援策として措置した病床機能再編支援事業を活用する予定である。